

当事者研究の可視化 テキストマイニングによる探求

小平朋江



保健医療福祉の総合大学

聖隷クリストファー大学

いとうたけひこ



和光大学

第12回当事者研究全国交流集会 浦河大会

浦河町総合文化会館 文化ホール

2015年7月30日(木)10:00-17:30

自己紹介：2008年頃よりべてるまつり参加 べてらーの小平・いとう

べてるまつり2009 浦河町

総合文化会館 文化ホール

「降りてゆく生き方」公式ブログより

<http://www.nipponp.org/blog>



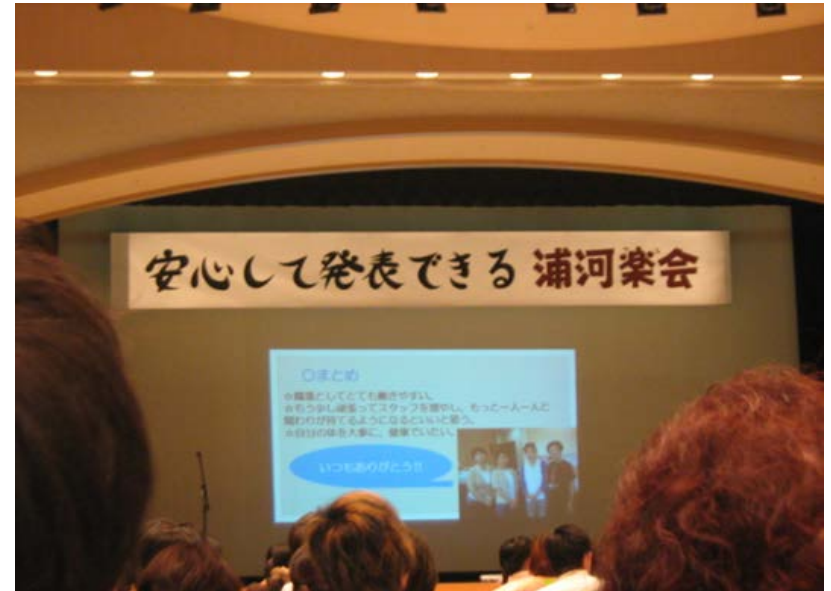
自己病名

- **いとう(心理学)**: 脱力系 顔と名前が覚えられない型 金欠性多動症候群
(Budget Deficit Hyperactive Disorder: **BDHD**)
- **小平(看護学)**: 強迫性寝ても覚めてもべてるのが気がになってしょうがない症候群

2014べてるまつり 8/29・30

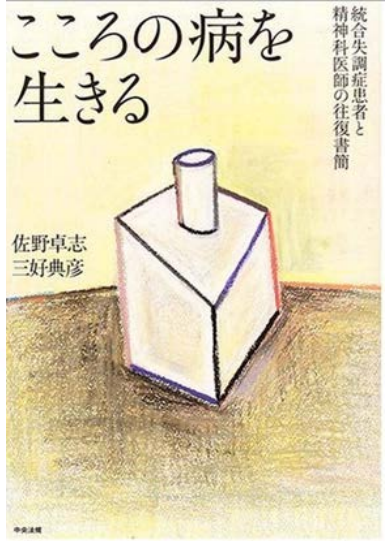
メイドinうらかわ 苦勞の先進地うらかわから世界へ

- べてるまつり会場で向谷地先生、川村先生と



統合失調症の語りの研究

- 統合失調症の経験を関係者で共有できる
- **ナラティブ教材** (小平・いとう, 2009) としての意義
- 単行本**217冊**を収集・リスト化 (小平・いとう, 2012)



統合失調症闘病記217冊のリスト化

心理科学第32巻第2号

表2 統合失調症の闘病記の単行本リスト

番号	著者名	発行年	書名	出版社
40001	高村光太郎	1941	智恵子抄	龍星閣・青空文庫
40002	クリフォード・ホイティンガム・ピアズ (1908) (加藤普佐次郎・前田則三訳)	1949	わが魂にあう (ふ) まで	羽田書店
50001	セシュエー (1950) (村上仁・平野恵訳)	1955	分裂病の少女の手記：心理療法による分裂病の回復過程	みすず書房
60001	小林美代子	1966	精神病院	文芸春秋
60002	小林美代子	1967	蕪となった女	講談社
60003	西丸四方	1968	病める心の記録：ある分裂病者の世界	中公新書
70001	小林美代子	1971	髪の花	講談社
70002	ハナ・グリーン (1964) (佐伯わか子・笠原嘉訳)	1971	デボラの世界：分裂病の少女	みすず書
70003	石川正一	1973	たとえ僕に明日はなくとも	立風書房
70004	標 哲郎	1977	歩いてきた道・歩く道	星和書房
70005	笠原 嘉	1978	ユキの日記：病める少女の20年	みすず書
80001	佐々木章一	1980	分裂病の娘の記録	晩聲社
80002	クリフォード・ホイティンガム・ピアズ (1908) (江畑敬介訳)	1980	わが魂にあうまで	星和書房
80003	松本昭夫	1981	精神病棟の二十年	新潮社 (文)
80004	リュシアン・ボナッフェ (1966) (山田悠紀男訳)	1985	僕は分裂病です：ある精神分裂病患者の物語	同朋舎

10013	中村ユキ	2010	わが家の母はビョーキです2 家族の絆編	サンマーク出版
10014	利光康子	2010	統失：あなたは知っていますか、この病を？	太陽書房
10015	中村ユキ・当事者のみなさん・福田正人 (監修)	2011	マンガでわかる！ 統合失調症	日本評論社
10016	SumiNasu	2011	天使との会話『花詩集』	文芸社
10017	東郷知可	2011	限界	文芸社
10018	ラグーナ出版編集部 (編)	2011	勇気をくれた言葉たち：精神身体験を救ってくれた言葉	ラグーナ出版
10019	西島寿幸	2011	半次郎と幻聴ミゲルの夢物語	文芸社
10020	荒木だご	2011	精神病のオレよりの国への遺書	フィッツソリーション
10021	べてるしあわせ研究所・向谷地生良	2011	レッツ！当事者研究2 「爆発」は「つながり」への渴望だ！	NPO 法人コンボ
10022	ハーモニー	2011	幻聴妄想かるた (解説冊子『露地』)	医学書院
10023	小林和彦	2011	ボクには世界がこう見えていた：統合失調症闘病記	新潮社
10024	平井美帆	2011	獄に消えた狂気：滋賀・長浜「2園児」刺殺事件	新潮社
10025	高村恋うたろう	2011	大切なあなたへ：妻を救ったのは薬でも機械治療でもなかった	文芸社
10026	NHK「ドラクロワ」制作班	2011	ドラクロワ	新人物往来社
10027	尾崎福生	2011	学童交差点	ラグーナ出版
10028	西 純一	2011	西純一の精神障害者ホームヘルパー日記	文芸社
10029	夢里純	2011	詩う月	文芸社
10030	タニシだいき	2011	統失ひきこもり4年生	文芸社
10031	月野弥生	2011	森の出口、晴れた空	文芸社
10032	柏 繁男	2012	二度ガンが消えた：わが人生の記録	文芸社

統合失調症の闘病記のリスト — ナラティブ教材の可能性を展望する —

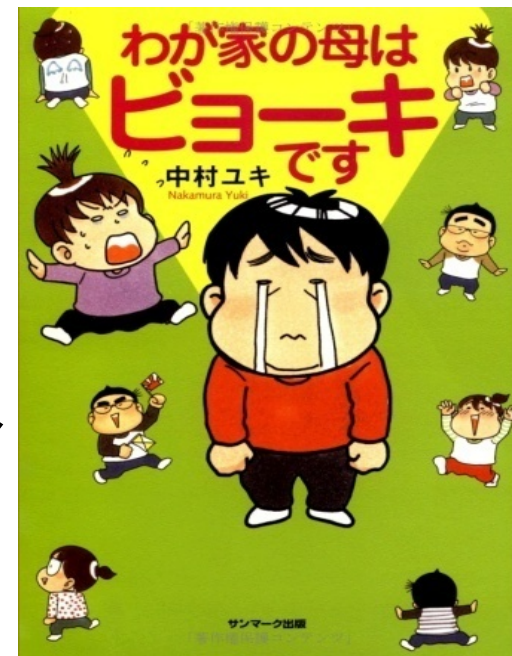
小平朋江 (聖隷クリストファー大学) いとう たけひこ (和光大学)

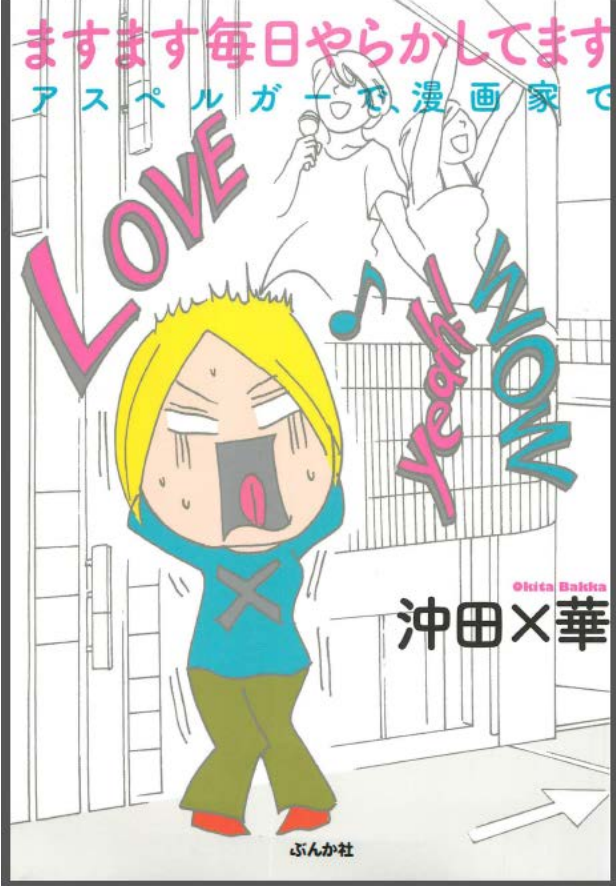
Making a List of Autobiographical Books on People with Schizophrenia
For Narrative Educational Materials

統合失調症の語りの研究

ナラティブ教材とは

患者の病いの体験を患者や家族などが自ら自分のことばで語った物語りが表現された作品であり、学習者にとってその体験の理解を促進したり、助けになる目的で看護教育などに利用されうる形に教材化されたもの
(小平・伊藤, 2009)





ますます毎日
やらかしてます。
アスペルガーで、漫画家で
2014年7月1日初版第1刷発行

著者 沖田×華 おきたばっか
発行人 角谷 治
発行所 株式会社ぶんか社⁸

SP対談

「ポジティブに
いこう!」

沖田×華



いとうたけひこ

和光大学 心理学部 心理教育学科

沖田 さくですが、自分の漫画が、大学の授業で教材として使われているというのが嬉しいですね……。

いとう 聖隷クリストファー大学の小平朋江さんと共同研究でやっていることで、僕らは「ナラティブ教材」としているんですけど、これは「語りの教材」という意味で、病いや障害の体験を当事者や家族などが自らのことばで語った作品を、その体験の理解を促進する目的で学習教材化するというものです。手記・漫画・映像・ウェブサイトなどいろいろな形があります。体験談やコミックエッセイを読むことで、その人の症状やエピソードをひとつひとつの「点」で見るとはなく、連続性のあるストーリーとして、症状や本人の苦勞や生き方の理解を深めていけるようになります。

沖田 確かに、私のエピソードは日常のものが多いかもしれません。

いとう 沖田さんはご家族やご友人の「他人の失敗や恥」も

いとう 聖隷クリストファー大学の小平朋江さんと共同研究でやっていることで、**僕らは「ナラティブ教材」としているのですけど、これは「語りの教材」という意味で、病いや障害の体験を当事者や家族などが自らのことばで語った作品を、その体験の理解を促進する目的で学習教材化するというものです。手記・漫画・映像・ウェブサイトなどいろいろな形があります。体験談やコミックエッセイを読むことで、その人の症状やエピソードをひとつひとつの「点」で見るとはなく、連続性のあるストーリーとして、症状や本人の苦勞や生き方の理解を深めていけるようになるんです。**

学生は
統合失調症
の症状や
エピソードを
点で
見ている

発病前
は良い
子、根
暗だった

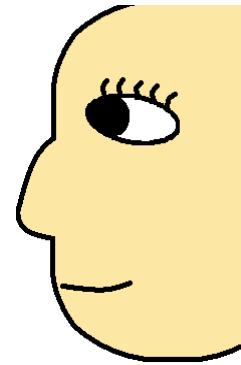
幻聴も
あって椅子
を投げ
げる

保護室
に入る

寛解



ナラティブ教材
の
活用



学生

学生は
統合失調症
を病む
古川さんの
体験を
連続性のある
ストーリー
として
見るように
なる

発病前
は良い
子、根
暗だった

幻聴も
あって椅子
を投げ
げる

保護室
に入る

寛解

統合失調症の語りの研究

闘病記・手記・**当事者研究**をテキストマイニング
テキストマイニングに期待できること



- 対象としたテキスト(**鉱山**)からマイニング(**発掘**)を行い**鉱石を見つけだす**(小平・いとう・大高, 2010)
- 大量の文字データにおける頻度や関係から**新たな事実をあぶり出す**(いとう, 2013)
- 「**みんなの気持ち**」の可視化(谷山ら, 2013)



当事者視点での回復の姿を明らかにできる可能性

宇宙で日常をつぶやく

— SNSの宇宙利用に関する探索的検討 —

野口 聡一・丸山 慎・湯浅 麻紀子・岩本 圭介

The purpose of the present study is to illustrate how social networking service (SNS) such as “Twitter [twitter.com]” works as a tool enhancing our communication between space and the ground. To do so, by using a text mining technique, we analyzed text data of an astronaut’s daily reports, short compositions posted by the astronaut on Twitter, and reactions from ground to his tweeting (the primary author is the astronaut himself. He wrote daily reports during his first space flight and tweeted during his second long duration space flight). In the analysis, we focused on the frequency of the use of some specific words and on changes in the astronaut’s verbal expressions over time. Results suggested that SNS communication had an impact on the astronaut’s word choice when he narrated his experience in space and also contributed to facilitating interaction between the astronaut and ground. Based on these findings, we speculated that, due to its easiness, promptness and bidirectionality, SNS has great potential for becoming a powerful and fundamental tool to reduce our psychological distance to space, and by this token, contributes to developing scientific interests of general public in space exploration. This implies that, through SNS communication, we have already begun to experience space as a part of our everyday things on Earth.

Keywords: astronaut (宇宙飛行士), social networking service (SNS), text-mining (テキストマイニング), communication (コミュニケーション), development (発達)

蓄積されたテキスト・データから、通常の読解作業だけでは把握することのできない情報の特徴を抽出することが可能になるのである。

以上の工程も経て、テキスト・データは量的に表現されることになる。つまりテキストマイニングとは、テキストという質的なデータを量的に表現し、探索的研究、仮説検証的研究、仮説生成型研究のいずれにも活用可能なものにしていく手法なのである(いとう, 2011)。小平・いとう・大高(2010)はそれを「対象としたテキスト(鉱山)からマイニング(発掘)を行い、鉱石を見つけたこと」と表現している。特に本研究は、データ自体の特殊性・個別性の高さ、それゆえの先行的知見の少なさから、探索的ないし仮説生成的なアプローチを試みる必要がある。そこでまずは日記およびツイートのテキスト・データを対象にして、「分かち書き処理(形態素解析および構文解析)」を施し、単語同士の係り受け表現や挨拶表現、そして語尾(敬語/非敬語表現、体言止め、感嘆詞等)等々を抽出し、さらに内容や文字数などの情報を解析した上で、各分析を実施したのである。

4. 分析I: 日記とツイッターの比較

分析Iでは、まず宇宙飛行士が宇宙滞在中に記した「日記」と「ツイッター」を対象にしたテキストマイニングを行い、それぞれの記録における単語の

宙滞在にかかる一連のイベントのサイクルとして捉えた場合の対応関係に着目して分析を進めることにした。表2には実際のテキスト・データからいくつかの具体例を示した。日記データの方が長文であることは明白だが、なかには文字数制限のあるツイッターと同程度の短文のテキストが日記に表れることもあった。

同表のツイートデータの例では、「昨日はクリスマスのディナーで地上の管制官とチャットしました。楽しかったよ!(第1期)」というテキストから、宇宙飛行士の心情を表す「楽しかった」という単語を抽出し、他のテキストからもそれに近い単語を含む部分を検索した例を挙げた。同様に同表5番目の例は、滞在時期の2期と3期のツイートデータを対象にして、宇宙飛行士の心情(「美しい」、「きれい」)や活動の強度あるいは頻度等(「忙しい」、「いつも」)を表す単語を含むテキストを抽出したものである。ここで抽出した単語は、後述するコレスポネンス分析の結果に基づき、出現頻度などの点から各滞在時期のテキストの特徴を反映していると思われるものから選択されている。

これらのテキスト・データについて、主観に基づく感想や印象を表し、心理的な変化を反映しやすく推測される一部の品詞(名詞形容動詞語幹(例「きれい」)、名詞ナイ形容詞語幹(例「味気ない」)、形容詞自立(例「多い」)、副詞一般(例「いよいよ

精神障害者の自助の心理教育プログラム「当事者研究」 の構造と精神保健看護学への意義

—「浦河べてるの家」のウェブサイト「当事者研究の部屋」
の語りのテキストマイニングより—

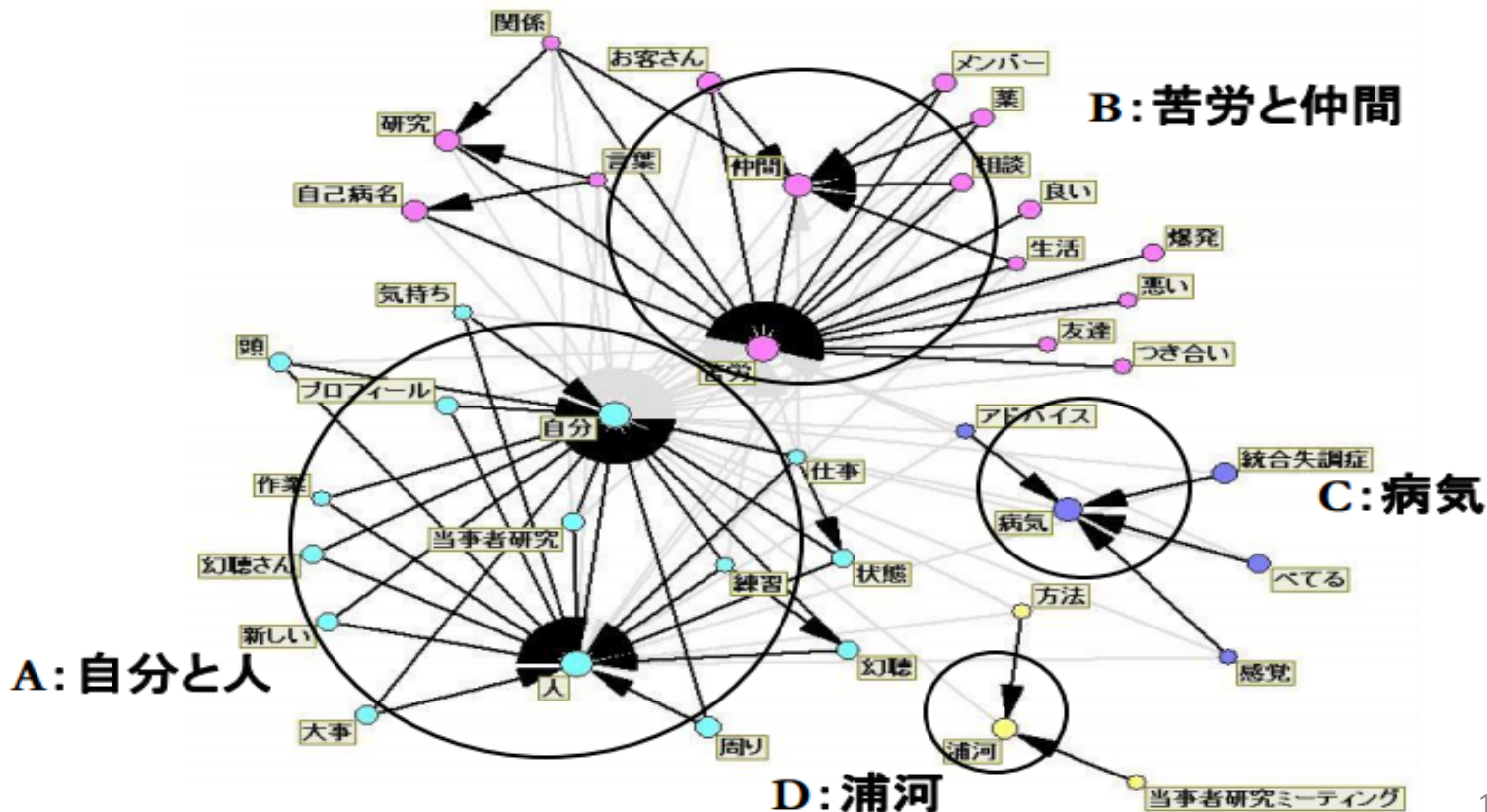
Structure of "Tojisha-Kenkyu (Self Helping Study)" as a Self Psychoeducational
Program by People with Mental Illness and Its Implication to
Psychiatric and Mental Health Nursing

—A Text Mining Analysis of The "Tojisha-Kenkyu no Heya (Self Helping Study Room)"
Website of "Urakawa Bethel House"—

大 高 庸 平¹⁾ いとうたけひこ²⁾ 小 平 朋 江³⁾
Yohei Ohtaka Takehiko Ito Tomoe Kodaira

キーワード：統合失調症、語り（ナラティブ）、エンパワーメント、回復（リカバリー）、ウェブ
サイト、コミュニティ

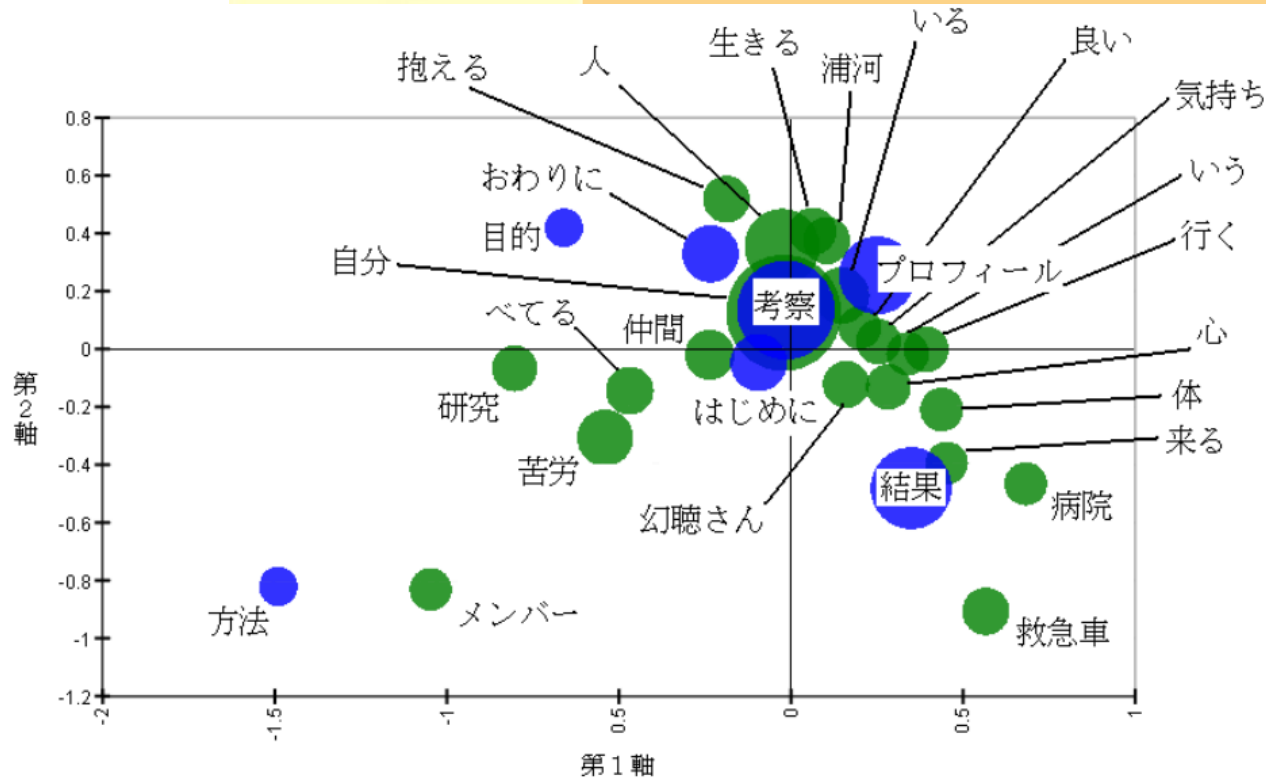
Key words : schizophrenia, narrative, empowerment, recovery, website, community





No.	研究事例名
①	「“劇場型”統合失調症の研究」
②	「“人格障害”の研究 その一」
③	「“人格障害”の研究 その二 見捨てられ不安の研究」
④	「人間アレルギー症候群の研究—第一弾」
⑤	「人間アレルギー症候群の研究—第二弾」
⑥	「“サトラレ”の研究」
⑦	「起業の研究」
⑧	「救急車の乗り方の研究」
⑨	「どうにも止まらない涙の研究」

5



【文献】大高庸平・いとうたけひこ・小平朋江・佐藤友香
2010 当事者研究の記述の構造分析: 向谷地・浦河べてるの家『安心して絶望できる人生』を対象として心理教育・家族教室ネットワーク第13回研究集会(福岡大会)抄録集, 53.

図1 「節」と“単語”による対応バブル分析(上位20単語)

図1は、対象とした9事例のテキストのなかから、属性(節)と単語の2つの変数について数量化を行った対応分析である。単語と距離の近い属性ほど関係性があり、近くに表示される。

はじめに



- ・大高・いとう・小平・佐藤 (2010)

『安心して絶望できる人生』のテキストマイニングで当事者研究の記述の構造分析を行った
その構造は科学論文と同じ体裁で仲間との語りを通じた研究による対処法が語られていた

- ・大高・いとう・小平 (2010)

ウェブサイト『当事者研究の部屋』の分析を行った
当事者の苦労を仲間とともに取り戻す回復の構造が確認された

【文献】大高庸平・いとうたけひこ・小平朋江・佐藤友香 2010 当事者研究の記述の構造分析：向谷地・浦河べてるの家『安心して絶望できる人生』を対象として 心理教育・家族教室ネットワーク第13回研究集会(福岡大会)抄録集, 53.

目的

- テキストマイニングの手法で、
表現の特徴
特に用いられた単語を分析
当事者視点から回復の姿を明確にする



方法

- 分析対象

べてるしあわせ研究所・向谷地生良

『レッツ！当事者研究』NPO法人コンボ

- ・第1巻(2009年)
- ・第2巻(2011年)



方法

- 6分野の苦労の内容別に章立て
「コミュニケーション系」
「幻覚・妄想系」
「人づきあい・自分づきあい系」
「恋愛系」「就労系」「依存系」
- 当事者研究の成果が掲載
計36件(各巻18件)
男性15人 女性16人 カップル5組
- この研究成果をテキストマイニングソフトウェア
Text Mining Studio 4.2で分析



結果 基本情報：形式的特徴

- ・総文数 4128文
- ・平均文長（文字数） 15.3文字
- ・延べ単語数 24249語
- ・単語種別数 4981単語
（タイプ・トークン比 0.21）



べてる しあわせ研究所
向谷地生良



「爆発」は「つながり」への渴望だ！



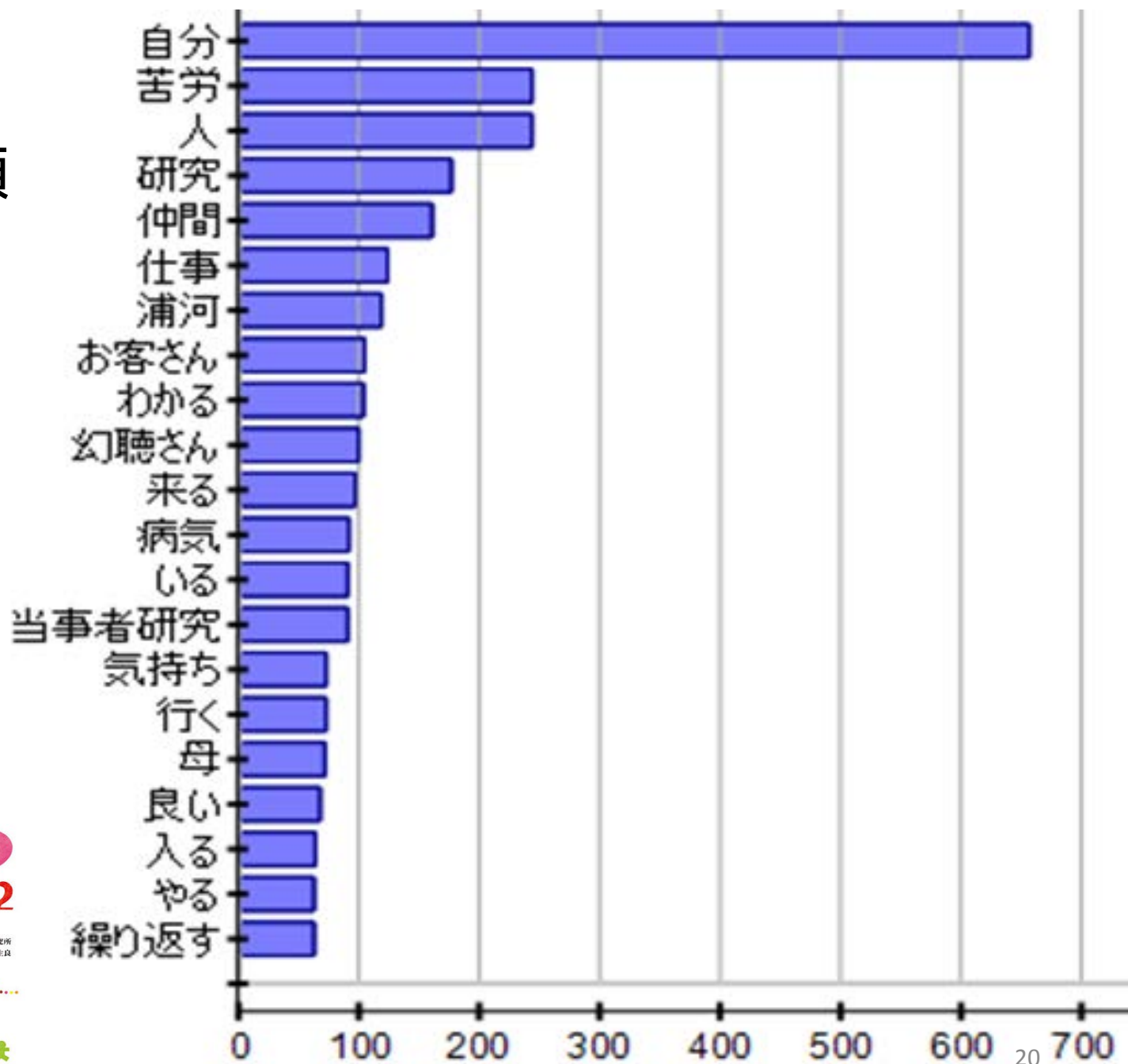
NPO 法人
地域精神保健福祉機構・コンボ

結果 単語頻度分析：使用頻度の多い単語

- 「自分」(657)
- 「苦勞」(244)
- 「人」(244)
- 「研究」(177)
- 「仲間」(161)
- 「仕事」(124)
- 「浦河」(119)
- 「お客さん」(105)
- 「わかる」(104)
- 「幻聴さん」(100)



図1 使用頻度の多い単語(上位20語)



結果 評判分析：好評語・不評語に着目して

●名詞を対象に好評語と不評語の上位単語を抽出

・好評語

「自分」「人」「苦労」「幻聴さん」「つきあい」
「助け方」「気持ち」「仲間」「お客さん」「人間」

・不評語

「自分」「情報公開」「人」「人間関係」「状態」
「具合」「仕事」「気持ち」「幻聴さん」



結果 当事者研究ではどのように**自分**を語るか？

- 今では、**自分**自身の言葉で話すことが本当に**自分**を助ける方法なんだと思います。(鈴木真依)
- 当事者研究をする前は、**自分**が病気に巻き込まれて、包まれているような感じでしたが、目の前に病気を置いて**自分**がちょっと離れて観察するというスタンスが持てるようになってきました。(宮西勝子)
- 生きていくうえで持つべき**自分**の荷物を持つこともなく、誰ともぶつからず、苦しむこともなく、のんしゃらんと生きている状態でした。(岩田めぐみ)
- 研究をすることであからさまに**自分**の苦労を皆に情報公開して**自分**のことをわかってもらい、じょうずな「**自分**の人生の運転」につながっていくんじゃないかと思いました。(松原朝美)

結果 当事者研究ではどのように**苦勞**を語るか？

- 私のやり方は「自分の**苦勞**のまる投げ状態」だということを知りました。そこで、自分の**苦勞**を大切に、自分の面倒を見られるようになりたいと思って当事者研究をすることにしました。(鈴木真依)
- 自分の**苦勞**を語りながら、ワーカーさんや当事者研究のメンバーに協力してもらい、一緒に自爆のパターンを解明することと、有効な自分の助け方が上手になるために、SSTや当事者研究ミーティングに参加しながら研究を進めました。(宮西勝子)
- ホワイトボードに自分の**苦勞**を出し合って行き詰まりのパターンを研究しました。幻聴にジャックされたときに、その都度、仲間や関係者に相談し「自分の助け方」を探りました。(阿部智穂)
- 自分のつらさを当事者研究ミーティングで聞いてもらい、その**苦勞**の内容から私の自己病名は、「統合失調症生活音恐怖型引越しタイプ」になりました。(浅古朗)

結果 当事者研究ではどのように人を語るか？

- 私にとって病院が唯一の安心できる場所でした。「病気」が安心を得るための媒体で、病気を使って人とつながっていたのです。(鈴木真依)
- 「帰ったら腕切るかもしれません」とか、「大量服薬をするかもしれない」と訴えて粘り勝ちの入院をしていました。そういう言葉を使ってしか先生と話ができませんでした。私にとっては、病気じゃなくなるということは、人とつながる手だてを失う恐怖感がありました。(鈴木真依)
- 幻聴さん依存から脱却するには、現実の人のつながりを実感することがポイントです。(阿部智穂)
- さびしさや不安が募ると、ついつい人に依存したくなりますが、自分の足で立って、ちゃんと自分で自分を助けることができるように心がけて、苦勞の丸投げでない方法を身につけようとしています。(岩田めぐみ)
- そこで早速仲間の協力を得て、自分と人のつながりをじゃまする「バリア」のメカニズムの解明に取り組み、自分の弱さの情報公開が「バリア」を弱めて人のつながり感を取り戻すことに役に立つことがわかった半面、「人づきあいの現実感の手ごたえ」が増すと逆に不安も大きくなることもわかりました。(千葉大介)
- 人とつながった感覚や自分の弱さの情報を出せて安心しました。たいへんでしたが、それが自信につながりました。(森亮之)

結果 当事者研究ではどのように**回復**を語るか？

- 「全力疾走」からの**回復**。(伊藤知之)
- **回復**してきて、幻覚妄想大会でグランプリを取ることができました。(亀井英俊)
- **回復**するために発見したことを、他に悩んでいる人に伝えて助けてあげたい。...私は精神障害という有用な体験を通じて学んだ生き方をメッセージとして仲間や家族、そして社会に伝えてゆきたい。(亀井英俊)
- **回復**のプロセスをまとめました。(加藤木祥子)
- **回復**を目前に恐怖感を抱き、無意識の後退を繰り返すメカニズムを明らかにしました。(加藤木祥子)
- **回復**までの期間を整理しました。(江良泰一)
- 仲間と一緒に**回復**していきたい。(浅野智彦)

考察



● 単語頻度分析:

当事者研究とは自分と病気の苦労と人間関係に関する研究であることが可視化された

● 評判分析:

「自分」「人」「幻聴さん」は好評語としても評価
病気に対する当事者研究におけるポジティブな姿勢

● 「回復」:

仲間と共に、回復のプロセスで、自分が発見したことを
悩んでいる人や社会に伝えたい思い

⇒心的外傷後成長(PTG)

考察

- 野中(2011)は新たな回復概念は「精神障害をもつ方々の手記活動から生まれた」と意義づけ、当事者のナラティブにはリカバリーのヒントが満載されていると指摘した。本書の6分野の苦労の内容からは精神障害者固有の「生活のしづらさ」(臺,1981)があらわれていた。
- 野中(2012)は浦河べてるの家の実践を取り上げ、「治療して『病気』自体をなくしてしまうことを意識」するのではなく、「こうしたあり方は『リカバリー(回復)』という言葉で議論され、注目される」と述べた。浦河べてるの家の当事者研究の成果は、病気と上手につきあいながらの人生や生活の取り戻しをした回復の姿であると言える。

【謝辞】本研究は平成27年度～平成29年度科研費基盤研究C(課題番号:15K11827)の助成を受けた。



浜松の「じゃんだらにいい」

● 精神障害をもった当事者が、病気と付き合いながら生き、回復していくまでの苦悩や苦労、希望やこれからについて語る会

● 遠州弁

「じゃん」「だら」「にいい」

● E-JAN:

遠州精神保健福祉をすすめる市民の会

大人の発達障害 悩み、転機、そして感謝

発達障害の大人について知ってもらいたいと、アスペルガー症候群と注意欠陥多動性障害（ADHD）がある浜松市の40代女性が13日、同市内で開かれる精神科利用当事者と市民らの交流会で、自らの体験を語る。



浜松 40代女性 体験語る

女性は東区の福祉施設職員村山穂代さん。20年前、金曜の福祉業界に入り、資格試験には難なく合格した。一方、物や情報の整理が苦手で単純ミスを連発し、苦しんでいた。現在は10年前に防れた。女性のADHDに関する本を読んで医療機関を受診したところ、発達障害と判明。その後、偶然入会したスポーツジムで、悩

「勇気持ち人」と交流



自宅や車、仕事場の鍵をまとめて持ち歩く村山穂代さん。ADHDの特性から物を置き忘れやすいため、毎日同じ手順で出し入れするように工夫している
＝4日、浜松市中区

浜北区で13日交流会

村山さんが参加する「2015じゃんだらにいいwithあ〜とdeい〜ら」(ファイザー・E-JAN主催、静岡新聞社・静岡放送など後援)は13日午後1時15分から、同市浜北区のなゆた・浜北で開かれる。精神科利用当事者4人が体験発表する。入場無料。希望者は直接会場へ。問い合わせは同実行委員会事務局 <電話053(453)8744>へ。

みを全うせよと定めてきた。定感が出てきた。れるコートと出会う。同じよう、市内に。だ。一家庭以外を除き、また発達障害の大人の者に無条件で受け入れ、自助団体「アドバンス」にも参加。人留め

「文官統制」を今

改正防衛省設置法

保の社会的ルールを守らなくては、職場でのトラブルが放つていった。現在、自身の発達障害を職場に伝えて働いている。急な予定変更への対応など、今も苦手な分野はあるが、フォローしてくれる仲間には感謝は尽きない。ト聞は「仕事に対する心配をなく村山さんから学ぶこともある」と頼みをする。

静岡新聞

夕刊

6月10日(水)

〒422-8033 静岡市駿河区豊日3-1-1
静岡新聞社
電話053(4)282-1111
月決め2,900円 電話053(4)282-1111
1部50円 (朝刊別売)

静岡アオイ病院

内科・リハビリテーション科
老人療養所棟一七四床
医療法人社団 豊正会

入院維持 静岡市浜北区三十九番地の一
電話053(4)278(3)9

ありがとうございました

